

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2020 年度事業報告書

2020 年度の当協会の事業等に報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究(研究会、ワークショップ等の実施)、映像アーカイブに関する刊行物(教科書、ハンドブック、用語集、ジャーナル、ニューズレター、映像コンテンツ等)の発行、映像アーキビストの社会的認知に関する普及啓発(会員間のネットワーク構築、映像アーキビストの認知向上を目的とする広報活動等)など

- 公式ホームページの充実とメッセージプラットフォームを用いた交流の試行

- (1) 各研究会(分科会) ⇒「ボーンデジタル映画の保存(デジタル映画保存研究会)」や「作品固有の ID を付与する取り組み(ナショナルフィルムグラフィック研究会)」、「フィルム環境継続研究会」などの発足を検討。

本年度はコロナ禍の影響で事業全体をウェブ中心に展開しました。各分科会構築についてもウェブ上での発足を念頭に、メッセージプラットフォームである slack を導入しました。来年度も継続していきます。

- (2) オーラルヒストリー⇒映像アーカイブに携わってきた人たち、映像アーカイブとの関連が深い仕事をしてきた人たちへの聞き取りを実施・蓄積・公開していくプロジェクト。後々の書籍化も検討。

本年度はコロナ禍により、対面形式の新たなインタビューの実施が難しかったため、手始めとして、当会の前身「日本映像アーキビストの会(仮)」が過去に企画したトークセッションの採録と HP 上での公開を行いました。来年度も継続していきます。

参考:「映画の復元と保存に関するワークショップ」の記録:「映像アーカイブのための資金調達の壁を突破する!」(2019 年)

<https://www.jamia.jp/2021/01/22/%e3%83%88%e3%83%bc%e3%82%af%e3%82%bb%e3%83%83%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%b3%e3%80%8c%e6%98%a0%e5%83%8f%e3%82%a2%e3%83%bc%e3%82%ab%e3%82%a4%e3%83%96%e3%81%ae%e3%81%9f%e3%82%81%e3%81%ae%e8%b3%87%e9%87%91/>

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認知ならびに関心の向上促進

- 基金設置の検討

当法人の事業と映像アーカイブ事業を支えるための資金調達の方法として、当法人による基金設置の可能性について、具体的な行動に至るまでの検討はできなかった。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

● 映画の復元と保存に関するワークショップ 2020(仮称)への協力

「映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ 2021」(主催:同ワークショップ実行委員会、開催:2021年1月23日)に、パートナーズの一員として参加し、広報協力などを行いました。ワークショップの参加申請者は450名、うち当日の視聴者数は393名(最大瞬間視聴者数は327名)。なお、2月1日より1週間実施したYouTubeによる見逃し配信には、計550回の再生がありました。

以上